

令和3年度 私立短期大学学生生活指導担当者研修会

分科会報告

<テーマ>

- 1) 大学における危機管理（防災、SNS、クレーム対応 等）
- 2) 学生支援（障害者支援、学生相談、経済支援 等）
- 3) 学生指導（感染防止指導、課外活動 等）

| | 頁 |
|---|----|
| 【分科会1】 テーマ：大学における危機管理(防災、SNS、クレーム対応 等)…………… | 2 |
| 担 当：鈴木副委員長 | |
| 【分科会2】 テーマ：学生支援（障害者支援、学生相談、経済支援 等）…………… | 5 |
| 担 当：吉富、多田 各委員 | |
| 【分科会3】 テーマ：学生支援（障害者支援、学生相談、経済支援 等）…………… | 7 |
| 担 当：末崎委員 | |
| 【分科会4】 テーマ：学生支援（障害者支援、学生相談、経済支援 等）…………… | 9 |
| 担 当：野中委員 | |
| 【分科会5】 テーマ：学生指導（感染防止指導、課外活動 等）…………… | 10 |
| 担 当：寺田、小野寺 各委員 | |
| 【分科会6】 テーマ：学生指導（感染防止指導、課外活動 等）…………… | 12 |
| 担 当：岩井委員 | |

分科会 1 テーマ：大学における危機管理(防災、SNS、クレーム対応等)

担当

戸板女子短期大学

鈴木俊昭 副委員長

本分科会は、表記の大学における危機管理を主題として討議を行った。なお、冒頭参加者による自己紹介を実施しアイスブレイクとした。

1. 防災について

[各大学からの主な事例]

- ・前期の早い時期に全学の防災訓練（教室から所定の避難場所へ移動する）を実施している。
- ・学生寮や付属の病院も含め防災訓練を実施している。
- ・避難訓練時には学生消防団員が先導し広域避難場所まで誘導している。
- ・4月にレクチャーを受けた防災係（学生）が中心となりクラス単位で実施している。
- ・コロナ禍で避難訓練ができないため、避難場所までのルート動画を作成し常時視聴可能としている。
- ・携帯用の防災マニュアルを作成し配布している。
- ・訓練用の消火器や煙中の疑似避難など体験型防災訓練を行った。
- ・毎年、防災備蓄品を入れ替えている。

[問題点・対策]

- ・授業等の関係で全学での防災訓練ができない。
- ・物理的に避難しなくても安否確認等ができないか検討している。
- ・訓練実施には消防署や関係業者などに協力してもらっている。
- ・災害が起きた時の対策をしっかりと作成し、教職員の連携が必要である。

2. 緊急時の対応について

[各大学からの事例]

- ・学生向けに危機管理マニュアルをホームページに掲載している。
- ・緊急時対応のマニュアルをメールまたはデジタル学内掲示板及び直接訴求するようにしている。
- ・有事の際には学生向けに外部の一斉メールシステムを導入している。
- ・安否確認システム（アプリ）を使用している。

[問題点・対策]

- ・学内で緊急時の対応の規定類が整備されていない。
- ・緊急時の対応について、どの組織や部門で決定していくのか曖昧である。

3. コロナ禍での授業(課外活動含む)について

[各大学からの事例]

- ・対面が必須の授業に対して人数を減員して対応した。
- ・学外実習先の協力を得て学外実習が行われた。

- ・少人数グループに分けて授業や実習を行った。
- ・PCR検査が必須の実習先施設の場合、学生に検査費用の補助を行った。
- ・65%の短大が何らかの形（オンライン、ハイブリッド等）で学園祭を実施した。
- ・感染状況を見て早期に学園祭中止を決定した。

[問題点・対策]

- ・コロナ禍で2年間は課外活動（学友会活動含め）が全くできなかった。
- ・活動に関しては、事前申請のうえ内容をチェックし許可している。
- ・緊急事態宣言中であったが、活動マニュアルに沿って課外活動を認めていた。

4. SNSについて

[各大学からの事例]

- ・入学前に SNS でオリエンテーションを実施したが、SNS で間違った情報が拡散されてしまう。
- ・入学前に SNS 等である程度友人グループが形成されているが、そこに入れない新入生にはチューターが仲間に入れるようにサポートを行っている。
- ・実習前にはオリエンテーションで SNS 利用に関して再注意を行っている。
- ・SNS に関して誹謗中傷を受けている等の相談が多くなっている。
- ・著作権や不正ダウンロードなどの注意喚起を行っている。
- ・オリエンテーションで警察による注意喚起を行っている。
- ・学生が投稿した SNS に対して、外部から飲酒、喫煙等学生の行動についての連絡がある。

[問題点・対策]

- ・入学時の指導、日ごろの指導、危機管理規定の整備が必要であり重要。
- ・初年次教育、オリエンテーションでの注意喚起と、各実習前にも事前に指導している。
- ・SNS の利用について、入学時オリエンテーションにしっかり説明する。
- ・対応体制の整備や注意喚起をする冊子の制作、マスコミ対策等、有事の対策を整備しておく。

5. クレーム対応について

[各大学からの事例]

- ・学生生活に係るクレームへの回答には明確な答えがないのが現状である。
- ・学内各部署等で連携を取りながら答えを出す。
- ・コロナに関して（入学式やオンライン授業等）のクレームが多かった。
- ・クレームに対してしっかり対応していることを認識していただくことが大切。
- ・近隣町内と意見交換の場を設けている。

[問題点・対策]

- ・一人で抱え込まずに専門家に相談しながら連携を取る。
- ・クレームの原因が分かった時にどのように対応するか、学内で共通のマニュアルを作成した。

6. その他の報告事例・対策

〔学生懲罰〕

学生への懲戒処分について、どこの会議体で決定するのか。

- 決定については学則に明記しているが、懲戒処分まで至らず懲罰の内容にもよるが学長面談を実施し注意を促す。学生委員長からの文書による通達を行う。警告に段階を付け指導している。

〔学内食堂施設について〕

学生サービスの一環でもある学内食堂に関して、コロナ禍で経営が厳しい状況がうかがえる。

- 35%の短大がコロナ禍で営業費用を一部負担している

7. まとめ

今回、オンラインにて開催したことにより本分科会でも青森から九州まで、各地の学生生活に関わる教職員の方々に参加いただいた。分科会ではテーマに沿って現状の問題点や情報交換が活発に行われた。討議では学生に関わる共通な部分が多く共感できた。多様化する社会に対応するためどのようなサポートが必要か、学生生活に関わる我々には何が必要かを共有するためにも、このような全国の各短大間の情報交換の場が必要であると思える、有意義な分科会となった。

分科会 2 テーマ：学生支援（障害者支援、学生相談、経済支援 等）

担当

東邦音楽短期大学 吉 富 浩 二 委員

武庫川女子大学短期大学部 多 田 祥 治 委員

本分科会は、メンバーを半分に分けてそれぞれ討議を行った。

Aグループ：吉富委員

特別支援が必要な学生への対応について

- ・公に出来ない点がもどかしい。やはり個人とのやりとりになる。
- ・本人からの申し出があれば分かるが、そうでない場合はゼミの先生等からの申告により、発覚したりするので把握がむずかしい。
- ・入試の時に申告がないと分からない。

コロナ禍の学食等での学生同士の会話について

- ・黙食を注意するものの、やはり、イタチごっこになっているのが現状である。
- ・ある短大では、病院のホームページにてコロナ感染をマンガで説明している事を学生に伝えた。

コロナ禍での課外活動について

- ・ほとんど活動できない状況であり、オンラインのみでの活動しかできていない。

新入生に対する学生指導について

- ・附属高校出身の学生については入学前に情報を得ている。
- ・学内アドバイザーより、情報共有させてもらう。

学生間の交流会に関して

- ・学科別に交流会をしている短大がある。

奨学金の説明会について（対面かオンライン）

- ・オンラインで実施した短大もあったが対応が難しく、対面で行っていた短大が大半であった。

就職活動について

- ・保育科等の資格があり目的のある学科は、スムーズに就職活動をしているが、それ以外の学科の学生は、オンラインが多いからか活動自体が遅く、大学より半強制的に促している。例えば合同説明会に行くなど。

留学生対応について

- ・コミュニケーションが難しい。留学生だけで集まってしまう。
- ・日本語検定 2 級を条件にしていたが、今では 3 級まで下げた。就職の斡旋や経済的支援も難しい。

コロナ禍の経済的支援について

- ・学生に大学から一律 5 万円、後援会から 1 万円支給した。

- ・ワクチン接種費用を負担した。
- ・外部より独り暮らしの学生にお米の寄付があった。
- ・大学独自のオリジナルの奨学金を設けた。

Bグループ：多田委員

学生への連絡ツールについて

- ・Microsoft teams、Google Classroom、LINE などの学内ポータルや学生掲示板に掲示するなど多様な媒体等を使用している。
- ・どのツールを使っても学内掲示を見ていない学生がいるため、全員が見るためには課題が多い。

学園祭について

- ・オンラインと対面のハイブリッドで実施した短大が多かったが、実習を控えている学生がいるため今年も学園祭を中止した短大もあった。
- ・学園祭の様子を Youtube で配信するにあたり、音楽など著作権の問題があり許可申請など苦勞した。

学生の貴重品管理について

- ・移動の際には貴重品を常に身につけるよう指導している。
- ・学生への注意喚起に加え、建物出入口に防犯カメラを置くなど防犯対策を実施している。

学生の顔と名前を一致させるための工夫について

- ・学生数が少ないため、2年生になると顔と名前が一致してくるが、カウンターに名簿を置いて対応している。
- ・学生面談の記録を可能な限りシェアして、学生が抱えている問題を把握している。

学生の就職先の未内定者の把握について

- ・キャリアセンターや就職課の職員が対応しているが、アドバイザーがフォローしている例もある。
- ・1年生から面談をしてきめ細かに対応している短大もある。

学生相談の体制について

- ・外部のカウンセラーに依頼しているが、学生は外部の人の方が話しやすいという声もある。
- ・学生相談室を設置して、学生が相談しやすいようにしている。
- ・学生相談室の場所は、人目につかない場所がいいのか、学生がアクセスしやすい場所がいいのか多様な考え方がある。

障害学生支援について

- ・困ったときにどこへ行けばいいのかという窓口を学生と保護者に周知している。
- ・一人専任のコーディネーターがいて、学生からの申請があればその後の支援について学生とコーディネーターが話合う。
- ・ピアサポーターを導入している学校もあるが、有償ボランティアなどでノートテイクをしている例もある。

分科会 3 テーマ：学生支援（障害者支援、学生相談、経済支援 等）

担当

聖徳大学短期大学部

末 崎 徹 委員

本分科会は、運営委員を含み 20 名で構成され、内 16 名は本研修会へ初参加であった。テーマである学生支援のうち、参加者から事前アンケートに回答のあった奨学金、経済支援等の事項を中心に事例紹介・報告・意見交換が行われた。

以下の 9 つの事項を取り上げて討議、報告を行った。

①修学支援制度と学費の納入について

- ・ 適格認定の母集団の少ない学科は学生の順位が入れ替わり、認定に苦慮している。
- ・ 適格認定前に成績が振るわない学生には、学科長、ゼミの先生に指導をお願いした。
- ・ 制度適用の新生生の学費納入は、一旦全額納入は 8 校、他は延納（保留）措置。（延納 6 割）

②給付奨学生について（学校独自の奨学金）

- ・ 新島学園短大より「資格取得特待生」制度が英検 2 級や TOEIC500 点以上はすべて対象としていることの説明があった。また、他の短大の助成金制度の内容では、学校ブランド向上、ボランティア活動であることに興味を持たれた。

③経済的支援の保護者への連絡方法について

- ・ 入学式後の保護者会で、他の説明とともに案内をしている。
- ・ 3 月の新生生宛の発送書類に奨学金の内容も加えている。
- ・ 未納の在学学生保護者から問い合わせがあった場合は、分納や現在納入できる金額で対応できると伝えている。

④コロナ禍での学生対応、連絡の方法について

- ・ 学生が登校する頻度が減る中で、伝達方法、締切りを守らない学生への指導に苦慮している。
- ・ 説明会の開催を数多く行っている。
- ・ 時間割の空いているところで一斉説明会を行って出欠を取り、欠席者のフォローをしている。
- ・ 返還誓約書は保護者宛に送っている。オンライン学生には、対面の説明会用パワーポイントデータを配信し理解が深まるようにしている。

⑤経済支援の相談、対応について

- ・ 奨学金について親からの問い合わせ・クレームが増え対応に苦慮している。
- ・ 低所得世帯の入学学生の支援、理解不十分で入学する学生への対応が難しい。
- ・ 日本学生支援機構から借りても納入が滞る学生は、保護者との関係性に問題を抱えるケースがあり、その介入度合は難しい。
- ・ 給付、貸与とも奨学金を受けているのに学費が払えない、親に連絡が取れないケースがある。
- ・ 奨学金の振り込みに保留をかけることで、保護者から連絡、問い合わせが来るようになった。
- ・ 入学時に行う教員と学生の面談から、学生を取り巻く情報が入ってくる。また、家族状況など背景をみ

ていく必要があるケースもある。

⑥障害のある学生への支援について

- ・積極的に介入していく。特別支援学生相談室を設けていて、本人の意思を確認して、相談が受けられるよう繋ぎ、学科で情報を共有し特性を把握して支援を検討、実施している。
- ・かかわることにより、本人の友人関係や居場所の問題が出てくる。
- ・入学時に健康管理票の提出を求め、既往症、相談内容があれば書かせている。学生、教務、実習で情報を共有し、必要に応じて配慮願いを提出してもらっている。
- ・本人の申し出により配慮申請を提出してもらい障害学生支援委員会に諮り、学科長、担任も交えて具体的にどういう支援ができるか検討している。

⑦学費の納入期限（コロナ禍での延納）について

- ・9月まで延納の猶予としている。(17校)
- ・10月以降も猶予の期間としている。(2校)

⑧経済困窮学生への介入について

- ・身ざれいで友人関係も良好で、表面上経済状況は見えないが、深夜までアルバイトしている学生がおり、本人からも申し出がなく介入が難しい。
- ・ゼミの担当教員が学生の生活状況の様子について把握するようにしている。
- ・学生が無理をしないようアルバイトを届け出制にした。しかし、届出をせず水面下で行う学生がおり、うまく行かなかった。

⑨アルバイトや課外活動の今後について

- ・アルバイトは担任へ届け出制にしている。ただし実習開始の2週間前から行かないよう指導している。
- ・課外活動は届出制として、活動の範囲を確認している。
- ・県のコロナ警戒レベルに準じて活動を許可している。
- ・アルバイトは以前から届出制として、学生の状況を把握している。届出制は抑止力になっている(学業優先)。

限られた時間の中での分科会となるため、開催日前に「事前アンケート内容」「給付奨学金(各校独自のもの)一覧」を分科会メンバーに配信して共有化を図った。

分科会では、自校の悩みの提起に対して、各校より具体的な実施例やヒントを紹介いただき、課題の解消に少しでも繋がるように進めた。

事後のアンケートからは「他校を知る機会として有意義だった」、「取り組みの好事例を聞いて参考になった」とお寄せいただいた一方、「議論の深まりが足りなかった」との感想もあり、実施方法について課題がある指摘もいただいた。参加いただく方に、より満足いただける分科会となるよう今後検討したい。分科会では各校から積極的に事例発表をいただき、参考に資することができました。ご出席いただきました皆様、有難うございました。

分科会 4 テーマ：学生支援（障害者支援、学生相談、経済支援 等）

担当

山梨学院短期大学

野 中 弘 敏 委員

本分科会は、運営委員 1 名を含む 21 名で構成され、内 17 名は本研修会への初回参加者であった。今回は Zoom を使用したリモート分科会となり、2 時間に短縮された日程となったことから、開始にあたって運営委員から進行方法を説明するとともに、申込時の事前アンケートに対する参加者の回答より「今回話題にしたい・情報を知りたいこと」を集約した結果を紹介し、参加者全体で互いの関心事を共有した。その後、4～5 名ずつ 4 つの小グループに分かれ、40 分ほど参加者間で意見交換を行った。休憩のち再び一堂に会し、各小グループで話題となった事項や質問を紹介していただき、それらの質問を中心に全体で意見交換を行った。

各小グループから分科会全体へフィードバックされた課題を要約すると、おおむね以下の通りであった。

- ①退学者の防止についての取組
- ②障がい学生への合理的配慮について
 - i 学校全体でどのような体制をとっているか
 - ii 個人的な事柄を学校全体でどのように扱い支援しているか
 - iii グレーゾーンの学生による申し出をどのように受理しているか
- ③コロナ禍で休みがちな学生へのアプローチ
- ④他者との関わりが苦手な学生へのアプローチ
- ⑤学生相談室の稼働状況
- ⑥UPI（精神的健康度調査）の活用状況

このうち、①については担任教員やアドバイザーがキーパーソンとなっている例、② ii では支援担当教職員以外の教員へは希望する配慮のみ共有する体制をとっている例、② iii では診断書提出を求める例が複数みられたこと、④では一人の居場所の確保とともに社会性を培う交流の機会を検討する例、⑤・⑥に関連して学生相談室来談への敷居をなくす手がかりの一つとして UPI 実施を契機に相談室につながった例などが語られた。

Zoom の利用により、職場からのアクセスなどにより参加がしやすかったなどの利点はみられた一方、小グループに分かれる際の時間的ロスや接続状態への懸念、短時間での役割分担などにより意見交換の時間が十分確保できず、参加者各位にはご負担をかけてしまった。心よりお詫び申し上げるとともに、進行上多大なご協力をいただいたことに深く感謝申し上げたい。

次回は気兼ねなく対面でじっくりと対話できる状況が迎えられますように…。

分科会 5 テーマ：学生指導（感染防止指導、課外活動 等）

担当

園田学園女子大学短期大学部 寺 田 豊 委員

仙台青葉学院短期大学 小野寺 健 委員

各短大参加者から自己紹介と情報共有したい内容を聞いた後、議事を進めた。

情報共有したい内容としては、コロナ禍の状況を踏まえた中での 1 課外活動支援、2 学園祭への支援、3 寮の感染防止策であった。要望が多かった順に議論を進めることとした。

■課外活動について

コロナ禍の状況により、活動がままならないだけでなく、勧誘活動ができないため、クラブ・サークル自体の存続を危ぶみ、危機意識を持っている短大が多かった。

勧誘活動支援の実施事例として、例年、体育館で実施していた説明会について動画を作成し、オンライン配信で実施したことで、説明会を行えなかった 2020 年度に比べ 20～30% 新入部員が増えたとの発言があった。また他の事例では、「密」にならない配慮のため、複数教室にブースを設けて、説明会を行った事例報告もあった。

勧誘については、顧問の先生から直接勧誘している短大があったり、学生課が主体となって、部員がいなくなって休部となっているクラブを再生させたりするなどの取り組みをしている短大もあった。グループフォームを使用し、学生課が仲介役となり、クラブに興味がある新入生とクラブの代表者を繋ぐ試みを行っている短大からの報告もあった。

また、活動で問題になったのが、音楽関係のクラブ活動で、合唱部など大きな声での発声を伴うクラブについては体育館を使用させるなどの配慮をおこなっている短大があった。また、練習の成果を発表できる場も少ないため、学園祭で演奏動画を流すなどの工夫をした短大があった。

課外活動の許可は活動をしたいクラブでの感染対策を踏まえて申請させる短大が多かった。実際に感染対策を行ったかどうか、チェックシートにチェックさせたり、報告書を提出させている短大もあった。

■学園祭について

昨年は学園祭開催を断念した短大がほとんどであったが、今年はオンラインだけでなく対面で開催した短大もあった。

オンライン開催での問題点として、模擬店での参加ができなかったため、クラブでの参加が極端に少なくなったり、視聴回数が伸びなかったりしたとの発言があった。視聴回数対策として、景品を豪華にしての抽選会を行うなどの工夫をした短大もあった。授業の一部として位置づけている短大もあり、学科等で動画を作成し、アーカイブとして長期間視聴できるようにしている。その他、フォトコンテストや仮装コンテスト、TikTok などでの動画提供など、オンラインでも楽しめる内容にするなど工夫が見られた。

対面ではクラス毎にリレーション企画を考えて開催することで、昨年来のコロナ禍の影響で希薄であった学生の関係が一気に良くなるきっかけになったとの報告もあった。

地域の人を呼びたいとの学生の要望があったが、感染対策上、難しく断念した短大もあり、コロナ禍での対面開催の難しさが浮き彫りになった。

■学生寮について

クラスターが出ないように学生寮の運営を各短大で行っているが、食堂、浴場、トイレなど共有部分が多い寮については厳しく感染対策をせざるをえず、苦慮している短大があった。特に2人部屋については、あえて一人しか割り当てしない運用をしている短大もあった。

■まとめ

コロナ禍の中、課外活動支援や学園祭支援に工夫をしていて、次年度の参考になる発言が多かった。

2年におよぶコロナ禍で、友人との関係やクラブ活動など、短大生の学生生活は多大な影響を受けた。この2年での学生生活への支援経験を活かし、学生の満足度を高めるための工夫することが必要かと考える。

分科会中、運営委員の通信が途切れ、迷惑をおかけしたことがあり、お詫びして、まとめとしたい。

分科会 6 テーマ：学生指導（感染防止指導、課外活動 等）

担当

貞静学園短期大学

岩井幸博委員

1 事前準備

本分科会は、運営委員1名を含む20名の参加予定であったため、討議がより活発に進行されるよう少人数の4グループ（A5名・B5名・C5名・D4名）に事前に振り分けた。グループ分けは経験年数、参加回数および男女比を考慮した。各グループの司会者を経験年数と参加回数から判断して事前に依頼し、メールで討議の進め方等を打ち合わせた。また、参加者にはタイムテーブル、討議内容と流れを記載した資料を事前に送信し、意見・情報交換の準備ができるように配慮した。討議内容については参加者の事前アンケートより、討議①「感染防止指導」、討議②「コロナ禍の学生支援」、討議③「その他学生支援事項」とした。

2 当日

事前欠席者1名、当日欠席者2名おり、分科会のグループ分けに変更が生じたが、人数調整することで対応した。分科会では全体の流れを説明したあと、各グループのブレイクアウトルームに分かれ、事前に依頼した参加者に司会を担当していただき討議を開始した。討議①ではCグループに運営委員・岩井が入り、欠席者分の人数を補って討議を進めた。討議②以降は、CグループとDグループを合わせて6名の参加者で討議を行なった。運営委員は各ブレイクアウトルームに参加し、進行状況を把握することに努めた。討議の間に全体共有の時間を設け、各グループ発表し情報共有を行なった。

3 全体共有事項

各グループからの全体共有事項について、箇条書きでまとめた。

討議① 感染防止指導について

【入り口での対応・健康観察】

- ・クラスごとにブースがあり、健康チェック表に記入。
(ブースに学年の教員が待機している→学生と話すことで様々な気づきがあった)
- ・入口にアルコールと体温計があるが基本は自己管理、健康観察表もあまり記入していない。
- ・校舎入口でのサーモカメラ、検温、手洗いを徹底している（学生部の指導等）。
- ・教員がはりついて指導している大学もある。
- ・健康観察は紙ベースの大学とポータルサイト（またはGoogleやTeamsのフォームを利用して）の大学があるが、どちらも回収や確認が難しい。
- ・行動記録表も書かせているが、効果があったとは言い難い。

【時間割の工夫や人数制限、座席間隔の調整】

- ・教室は収容定員の50%にし、座席間隔を空ける対応をとっている。
- ・教室を分散させて授業を実施しているところもある。
- ・学年を隔週で通学させている（通学の学年とオンデマンドでの授業実施）。

- ・学生の時間割をずらし、学内が密にならないようにした（休み時間がずれると別の問題が出てくる）。
- ・大学と短期大学で通学する週を分けている。

【学内の情報共有】

- ・学内の情報共有について、感染に関する個人情報をどこまで共有するかは大学により違いがある。

【学内での食事の指導（黙食指導など）】

- ・学食はパーテーションを置き、限定メニューで長居をしないように工夫。
- ・黙食指導に苦慮している。
- ・食事時間を 30 分に制限（時間短縮のため学生は不満）。
- ・教職員が休み時間や昼休みに教室を見回り口頭で注意する。
- ・大学から帰った後などの教職員の目が行き届かない場面で密になり、マスクをはずしての会話、食事などを行ってしまう事例が多くあり、学生の心構え、感染防止対策の意識を保つための対応の仕方が課題。

【公認欠席】

- ・公認欠席の扱いについては事前連絡があった場合は認めるが、事後でも PCR 検査等の証明があれば認めている。

【課外活動】

- ・課外活動はコロナ禍前にどれくらい活動をしていたかによって、現在の活動状況に違いが見られる。
- ・短期大学だと 2 年間しかないの一旦活動が止まってしまうと再開や継続が難しい。引継ぎも課題。
- ・新生は 4 月に入部しないと、クラブに参加する機会を逃してしまい、そのまま入らなくなってしまう。
- ・対面授業実施期間中は再開した。事前申請を必要とせず普段通りに実施している大学もある。

討議②コロナ禍の学生支援について・討議③その他学生支援事項について

【イベントや行事の開催】

- ・学園祭開催について、昨年度は中止の大学も多かったが、今年度は実施した大学も多く、対面またはオンラインでの開催。
- ・今年度も中止の大学は、今後の引継ぎが難しいことが課題。
- ・オンライン開催の方法としてはインスタでライブ配信をした大学もある。
- ・オンライン開催したが視聴が少ない、満足感や達成感が得られないなどの課題もある。
- ・オンライン開催した学園祭にはお笑い芸人を呼び、生配信でクラスごと、教室ごとに開催した事例もあった。
- ・学生主体のイベントではあるが、教職員も関わっている。
- ・学園祭が中止になったかわりに、イベントを実施した（ハロウィン・クリスマスなど）。
- ・昨年度のイベントはすべて中止だったため、学友会が企画して花火大会を実施。学生の思い出作りになった。
- ・スポーツ大会や学園祭は学生のみで実施。
- ・卒業式は学生のみで実施、保護者の参加者を絞って実施など検討中の大学もある。

【学生相談・情報発信の方法について】

- ・ポータルサイトを活用している大学が多い（紙の掲示を廃止した大学もある）。
- ・情報発信を Web やアプリ化する流れがある。
- ・Web やポータルサイトからだと学生にとっては情報が多すぎて、重要な情報が埋もれてしまう。
- ・学生証をアプリ化して、プッシュ通知でお知らせを流せるようにした（コスト削減できる）。
- ・学生相談は Zoom で実施。ただし、家庭事情によってはできない事例もあった。
- ・学校に登校していないため、施設料へのクレームが数件あった。

【配慮の必要な学生について】

- ・保育実習に出すのが大変。
- ・メンタルが不調になり短大に来られなくなるとそのまま休学になるケースが多い。早めの対応が必要。
- ・メンタルより、経済的な問題のほうが多い。
- ・パソコン画面の前で授業に集中することができず、オンライン授業を教室で受けた学生がいた。
- ・合理的配慮の許可が出ている学生については休んだ授業の資料を渡したり、欠席した分をレポートに置きかえたりしている。
- ・教室に1人で入れない学生は一緒についていくこともある。

4 まとめ

初めてのオンライン開催であったが、事前に4つのグループに分け、ブレイクアウトルームで少人数の意見交換・情報交換の場を設定できたため、参加者が各々意見を述べ、より密に情報交換を行うことができた。コロナ禍というこれまで経験したことのない状況の中で、それぞれの大学が試行錯誤して学生対応・支援を行っており、その結果、対応や支援の方法には共通性も見られ、同じ悩みを抱えていることも確認できた。今回の意見交換・情報交換を機にコロナ禍における学生支援の充実に繋がることを期待したい。

オンライン開催のメリットとして、移動時間や費用の削減、研修会参加のハードルが下がったことが挙げられる。一方で、時間通りに終了してしまうので、意見交換を継続したい場合もあり対面での実施を望む声も参加者から聞かれた。今回の分科会においては時間が足りないと感じたため、討議内容をより絞った方が良かったことが反省点として挙げられる。また Zoom 機能（チャットやホワイトボード機能など）やアナログ機材（例えば用紙やホワイトボードなど）を有効活用して、より意見交換がスムーズに行えるように運営委員や参加者のスキル向上も望まれる。今後はそれぞれのメリット・デメリットを勘案し、対面かオンライン、またはハイブリットでの開催も考えられる。いずれの方法でもやはり研修会を通して学生支援の充実が図れるので、今後も実施を継続したい。

最後に事務局はじめ運営委員や参加者の皆様のご協力が無事に運営することができました。ご協力に感謝申し上げます。